

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K01043

研究課題名（和文）出土史料と文物考古資料からみた古代チベット帝国の文書行政と国家体制の研究

研究課題名（英文）A Study of the Documentary Administration and State System of the Old Tibetan Empire based on Central Asian Documents and Historical and Cultural Artifacts and Artefacts

研究代表者

岩尾 一史（Iwao, Kazushi）

龍谷大学・文学部・准教授

研究者番号：90566655

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：6世紀末から7世紀初めにかけてチベット高原をはじめて統一した古代チベット国（吐蕃）は、周辺の様々な民族・集団を支配下におく一大帝国へと成長し、さらに2世紀半にわたり存続し続けた。急成長した新興国家が長期にわたり存続し得た理由の一端がその国家体制にあることは十分に予想されるところであるが、チベット帝国がどのような国家体制を有していたのか、不明な点が多い。そこでこの課題を解決するために、チベット帝国の文書行政体制の解明を目指す。中央アジア出土文書などの一次史料を元に、公文書の書式研究と文書処理のプロセスを解明し、長期支配を実現可能にした国家体制の性格の一端を明らかにする。

研究成果の学術的意義や社会的意義

古代チベット帝国（吐蕃）は史上に突如現れたにもかかわらず唐・ウイグルなどと並ぶ大国に成長するだけでなく2世紀ほど存続し、また後のチベット文明に大きな影響を与えた。しかしこの国家の詳細については不明な点が多く、例えば東洋史の概説においても簡単にしか説明されない。近年、古チベット語の出土史料、金石史料数の増加、史料のインターネット公開、オンラインテキストデータベースの出現など研究状況が劇的に改善した今、史料数の多い行政文書の研究を通じて、古代チベット帝国の国家像の一端を明らかにする。

研究成果の概要（英文）：The Old Tibetan Empire or Tufan, which unified the Tibetan plateau for the first time from the end of the 6th to the beginning of the 7th century, grew into a vast empire that controlled various ethnic groups in the surrounding area and continued to exist for another two and a half centuries. Although it is reasonable to expect that part of the reason for the long-term sustainability of this new state lies in its state system, there are many unknowns as to what kind of state system the Tibetan empire had. This project aims to elucidate the documentary administrative system of the Tibetan empire. Based on primary historical sources such as contemporary documents unearthed in Central Asia and artifacts, this project will study the format of official documents, elucidate the process of document processing, and clarify some aspects of the nature of the state system that made long-term rule feasible.

研究分野：東洋史

キーワード：吐蕃 古代チベット 行政文書 公印

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

6世紀末から7世紀初めに統一国家を設立した古代チベット帝国(吐蕃)は、7世紀前半には軍事国家体制を整え、8世紀後半からはチベット高原を越えて広がる多民族国家に発展した。そして一介の新興国家に過ぎない古代チベットは、広大な領域と様々な民族・集団を統治しながらも、2世紀半という長期間にわたり存続し続けたのである。このような長期の国家運営を支えたのが、チベットの有した高度な文書行政体制であることは、出土史料や金石文など文物考古資料の研究から予想されてきた。しかしそれにもかかわらず、その文書行政システムの全体像はいまだ明らかではない。

ただし今まで研究が皆無というわけではなく、1950年代には古チベット語公文書の研究は始まっていたものの、先行研究の多くは文書を個別に扱って読解することに注力し、結果として書式研究や行政システムなどの総合的研究までには至らなかったのである。

そのような状況に対し、言語学者の武内紹人は契約文書、手紙文書を収集して共通の書式・パラレルな表現を抽出する方法により、飛躍的な成果を挙げている。西田愛もまた同様のアプローチを使い、古チベット語占い文書研究の分野で大きな成果を挙げた。このようなアプローチが行政文書の研究においても有効であり、さらにはこのような研究によってはじめて文書行政の仕組みが明らかになることは間違いない。そこで応募者はチベット語公文書を一グループとして共通の書式・パラレルな表現を抽出する方法を通じて、公文書の解読・分析を行ってきた。

本研究では、新出史料を十分に活用して応募者の今までの研究を補強・推進することを目指すと同時に、チベット帝国の文書行政研究の集大成を目指す。それにより、古代チベット帝国の文書行政体制を明らかにし、さらには同時代の唐帝国と比較検討し、行政文書からみた古代チベット帝国という国家の一側面を浮き彫りにする。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、中央アジア出土の古チベット語文書、金石文など文物考古資料をもとに古代チベット帝国の文書行政体制の全体像を明らかにし、未解明の部分が多いチベット帝国の国家体制の一端を浮き彫りにすることである。この目的のために、現存する全ての古チベット語公文書の調査を行い、その結果をもとに文書管理と行政手続きを分析し、さらに公印の機能について考察する。あわせて研究の過程で得られたテキストデータをオンラインデータベースに加え、古チベット語研究への寄与をはかる。

### 3. 研究の方法

本研究では、上述の研究目的を区分し、次の4点とした。

#### (1) 現存する古チベット語行政文書の網羅的調査と分類

古代チベット帝国治下ではツェンポ(皇帝)の命令から領収書に至るまで、チベット語・非チベット語を問わず様々なレベルの文書が発行された。しかし従来の研究において分析されたのは、手紙の形式を取るものや土地簿記などごく一部の文書のみであり、その他の様々な文書については不明の部分が多い。そこで本研究では、現存する古チベット語出土史料を所蔵機関でのオリジナル文書やフィールド調査によって網羅的に調査し、古代チベット帝国における公文書の全容を把握する。その上で書式やテキストの内容を元に系統的に分類する。

#### (2) 古代チベット帝国の文書管理と行政手続きの総合的研究

応募者は古代チベット帝国時代の会計文書の研究を進め、その過程においてチベット帝国に

おける行政文書の手続きと文書発行にかかる仕組みについて考察してきた。本研究では、会計にとどまらず、出土史料や文物考古史料などから判明し得る限りの行政手続きについて網羅的に研究し、文書管理の方法や行政手続きの過程について解明することを目指す。さらに、判明した結果を唐など同時代の国家の行政手続きと比較し、チベット帝国の文書行政の淵源についても考察する。

#### (3) 古代チベット帝国における公印とその機能の研究

古代チベット帝国の公文書における特徴の一つは、四角の公印 (phyag rgya) が文末に押されることである。それらの印影についてはすでにある程度収集されてきたが、中国国家図書館など新史料が発表された現段階では、用例の収集と内容の分析を改めて行う必要がある。本研究では現存する公印の印影を網羅し、その用法について分析する。また一方で、公文書であるにもかかわらず公印ではなく私印 (sug rgya) が押された例があることに注目し、公文書における公印と私印の使い分けについても、用例を元に考察する。

#### (4) 古チベット語テキストデータの収集とデータベース化への寄与

古チベット語は専門の辞書や文法書がなく、意味が未詳の単語、表現が大量に存在する。従来は古チベット語に関する情報が少なく、結果として意味未詳の単語を一文書内のみで解釈せざるを得ない例がまみられた。近年語彙索引や KWIC (Key Word In Context) が充実しはじめ、さらに応募者も参与するオンラインの古チベット語テキストデータベース (OTDO) が立ち上がったことによって研究環境が改善され、複数の類例から意味を類推することがようやく可能になりつつある。

しかし最近 10 年間における古チベット語史料の発見と公開は目覚ましく、これら新データによって現状のデータベースを大幅に増補する必要がでてきた。そこで、データベース拡充のために、本研究に関連するテキストデータを本研究の成果として新たにインプットする。なお効率性と波及効果を考慮し、新たなデータベースを構築することはせず、既存のオンラインデータベースである OTDO にテキストを加えるという方法をとる。

## 4. 研究成果

研究成果について、次の 4 点に分けて説明する。

### (1) 現存する古チベット語行政文書の網羅的調査と分類

チベット帝国の行政文書について調査し、紙文書についてはおよそその全体を把握することができた。またその一部については実物に基づき調査することができた。ただし、コロナ禍により予定された現物調査が不可能となったので、今後引き続き実物調査を行いたい。さらに、木簡についてはいまだ悉皆調査が終了していないので、実物調査を含め引き続き調査を続ける。その上で、得られた研究成果については論文などで発表する予定である。なお調査の過程でアレクサンダー・ゾーリン氏 (ロシア科学アカデミー東方写本研究所・サンクト・ペテルブルク) と共著で、同研究所所蔵の敦煌発現古チベット語世俗文書の整理を行い、その一部を論文として出版することができた。

### (2) 古代チベット帝国の文書管理と行政手続きの総合的研究

行政文書の仕組みについて考察し、チベット支配後も文書行政が残っていたことを論文・口頭発表などで公表した。主な業績は以下の通りである。

2019 年『敦煌学会』(ケンブリッジ大学)にて、古チベット語敦煌文書 P. t. 1128 をもとにして、古代チベット帝国の追加徴税について研究発表した。特に上記文書に繋がる断片が存在し佚文を回収できること、テキスト全体から追加徴税のプロセスが判明することについて報告した。

2019 年『旧紙弥新 敦煌古蔵文文献学術研究会』（清華大学）にて敦煌の土地調査と調査のプロセスそして関連する公文書について研究発表した。

2020 年、坂尻彰宏氏（大阪大学准教授）と共著で帰義軍期に発出された古チベット語公文書 P.t.1171 について論文を出版した。古代チベット帝国支配後の敦煌でも引き続き古チベット語が公私にわたり使用されていたことは知られているが、本文書は帰義軍期にもかかわらずチベット期の公印が使われるなど他に例がない特徴を持つ。本文書の発出時期、内容分析、そして公文書の書式変遷における本文書の意義について考察した。

2022 年、公印が押された公文書の分析にともない、辺境にありながら例外的な権力を有した khrom chen po が発出した命令文書 3 点についてその内容と行政手続きについて整理し、khrom chen po が実際には何処に置かれたのか、なぜ例外的に大きな権力を有していたのかについてオンライン上での講演にて公開した。今後は講演の内容を文章化して発表する予定である。

### （3）古代チベット帝国における公印とその機能の研究

古代チベット帝国支配下で作成された公文書と、文書に押された公印・私印の事例を収集し、その内容分析と印の分類についての研究を進めた。特に中国国家図書館所蔵の古チベット語文書には今まで存在を知られなかった公印をいくつか発見することができた。現存する印影とその内容分類、公印を発行した行政機関、さらに公印が押された公文書との関係などについては、2022 年 7 月に国際チベット学会（16th Seminar of International Association for Tibetan Studies）にて口頭発表を行うことができた。

### （4）古チベット語テキストデータの収集とデータベース化への寄与

得られた成果の一部については古チベット語オンラインデータベース Old Tibetan Documents Online（<https://otdo.aa-ken.jp/>）に公開することができた。また公印・私印については、一部を IIIF 化することができたので、サンプルを公開中である。今後他の公印・私印についても順次公開を進めていく予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Kazushi Iwao	4. 巻 60
2. 論文標題 Gog cu as Tibetan Buddhist Site of the North-Eastern Amdo Area during the Post-Imperial Period	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Revue d'Etudes Tibetaines	6. 最初と最後の頁 161-173
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩尾一史、坂尻彰宏	4. 巻 15
2. 論文標題 歸義軍政権初期におけるチベット語公印の使用とその背景 Pellicot tibetain 1171の検討を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 敦煌写本研究年報	6. 最初と最後の頁 97-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 48.Kazushi Iwao, Alexander Zorin	4. 巻 6.1 (11)
2. 論文標題 Secular Fragments of Tibetan Texts Found at the Main Dunhuang Collection Kept at the IOM, RAS	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Written Monuments of the Orient	6. 最初と最後の頁 103-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 岩尾一史	4. 巻 230
2. 論文標題 多民族国家としての古代チベット帝国	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史と地理：世界史の研究	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 Kazushi Iwao
2. 発表標題 Digitization and Text Database: From the case of Old Tibetan Studies
3. 学会等名 Invisible East (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazushi IAWO
2. 発表標題 On Additional Collection of Taxes under the Old Tibetan Empire
3. 学会等名 Dunhuang Studies Conference, Cambridge 2019 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazushi IAWO
2. 発表標題 On Tibetan Buddhist Sites of North-Eastern Amdo Area at the Post-imperial Period and Their Origins
3. 学会等名 The 15th Seminar of International Association of Tibetan Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazushi IAWO
2. 発表標題 Census and Land Registration in Tibetan-ruled Dunhuang
3. 学会等名 旧紙弥新一敦煌古藏文文献学術研討会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩尾一史
2. 発表標題 四川・青海・敦煌：九、十世紀之西藏文化圈与交通
3. 学会等名 中日蔵学研究の現状（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazushi Iwao
2. 発表標題 Official Square Seals of the Old Tibetan Empire: Official Seals and Documents
3. 学会等名 16th Seminar of International Association for Tibetan Studies (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazushi Iwao
2. 発表標題 Local Military Governments (khrom) in the Hexi Area and “The Great Military Government
3. 学会等名 清華大学人文学院成立10周年院慶活動漢蔵佛教語文学系列講座（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 荒川正晴	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 312
3. 書名 岩波講座世界歴史06 中華世界の再編とユーラシア東部 4~8世紀	

1. 著者名 岩尾一史・池田巧	4. 発行年 2021年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 360
3. 書名 チベットの歴史と社会 上：歴史篇・宗教篇	

1. 著者名 岩尾一史・池田巧	4. 発行年 2021年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 430
3. 書名 チベットの歴史と社会 下：社会篇・言語篇	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------